

ゴミ、し尿処理工場などを視察



浦添市清掃工場で職員の説明に耳を傾ける主婦の皆さん。



燃えるゴミと燃えないゴミを分別しないと焼却炉をつまらせる原因になります。

本村は、人口増加に伴い都市化現象がいちじるしくなり、ゴミの量も年々多くなり、ゴミ戦争時代に入ったとも云える今日このごろ……村では、二月十四日午前九時から午後四時までゴミの分別、収集、出し方などの意識高揚を図るために村民約七十人を参加させ実

地にゴミ、し尿処理工場を視察して回った。この日は朝からどしゃぶりの雨であるにもかかわらず各地区から参加された村民の皆さんは解りを深めた。特に、家庭の台所を預かる主婦の皆さんにとってそ

れは切実な問題であるだけに真剣なものであった。参加できなかつた主婦の方々にも考えてもらいたいのがこのゴミ・し尿処理の問題であります。

視察場所は、東部清掃施設組合ゴミ処理工場、し尿処理工場、那覇清掃工場、浦添市清掃工場、倉浜清掃工場（沖縄市在）、北中城青海苑（し尿処理場）など六ヶ所で各地で二十分から三十分程度、説明を受け各施設を見学して回った。ゴミ処理は、燃焼式ゴミ焼却炉によるものと破碎処理装置によるものがあり、いづれも近代機械施設を装備し巨額のお金が投じられているであろうと一見わかるものである。これらの施設が市町村の財源でまかなわれる以上村民の皆さんにとっても村行政

関係機関等の深い御理解と御協力により、円滑に運営されておりましたが、現在字・班と地域別にグループを組織して、輪番制で給食費の徴収を御父兄の皆様にお願いしておりますが、一月三十日の学校給食運営委員会と二月三日の教育委員会で、村の都市化現象等、諸般の状況を慎重に検討した結果、金融機関に各父兄が払込みすることに変更されました。昭和五四年四月分から実施いたしますので、御協力をお願いします。なお、払込の方は図の通りです。

**燃えるゴミと燃えないゴミ
は分別収集して下さい**



発行所
西原村役場
電話(09894)(5)-4533

印刷
西原印刷
電話(09894)(5)-3475

村の世帯・人口
(昭和53年12月末日現在)
世帯数 3,651世帯
人口 15,373人
男 7,821人
女 7,552人

12月の人口移動
出生 19人
死亡 72人
転入 91人
転出 24人
婚姻 0件

佐敷村の三町村で負担金を出し合って東部清掃施設組合（事務組合）をつくり、三町村の生活廃棄物の終末処理業務に關することをそこで、本村の場合、与那原町、

那覇市、浦添市などを除いて単独でそのような処理施設を持つことはとうてい不可能であります。そこで、本村の場合、与那原町、西原町、西原村の場合は、「ゴミは燃えないとお願いしたいのは「ゴミは燃えるもの（残菜、紙、茶カス、ごはんカスなど）と燃えないもの（空缶、ガラス類など）に分別して収集してもらいたい。」ということです。なぜならば同一の袋に燃えるものと燃えないものを一緒に入れると現在、ゴミ処理工場での分別は不可能な状態であり、そこで分別をすれば人件費がかかり、税金を多く使うことになります。

当局にとつても関係の深いものであります。

化を実施し、村民の皆さんのお望

にこたえる努力をしております。

が、今一つ村民の皆さんにご協力

の故障の原因になるほか燃えた

との灰が肥料に使えないといい

ます。そのため、定期的に焼却

炉の修理が行なわれ、昭和五十三

からそれらを取り除く作業や故障

部の修理が行なわれ、昭和五十三

年度で二、一〇〇万円の税金を無

駆にしております。ゴミの分別収

集と云いましても、ゴミ箱を家庭

内の台所に二つ置いて、ビニール袋を敷きそれらに分別収集して頂

ければ楽に簡単にできます。御協

力よろしくお願ひ致します。

各児童生徒（保護者）

払込通帳

①の方法

払込通帳（現金）

領収証書（捺印）

納入済通知書

児童生徒名簿

金融機関

給食調理場

小・中学校

給食調理場

学校給食費は金融機関払込へ

学校給食の実施以来、御父兄、

関係機関等の深い御理解と御協力

により、円滑に運営されておりま

すが、現在字・班と地域別にグル

ープを組織して、輪番制で給食費

の徴収を御父兄の皆様にお願いし

ておりますが、一月三十日の学校

給食運営委員会と二月三日の教育

委員会で、村の都市化現象等、諸

般の状況を慎重に検討した結果、

金融機関に各父兄が払込みするこ

とに変更されました。昭和五四年

四月分から実施いたしますので、

御協力をお願いします。なお、払

込の方は図の通りです。

新年度四月から

学校給食費の支払法が変わります

*詳細な事項については、児童生徒を通じて払込通帳と同時に配布します。



西原村農業委員会委員選挙人名簿
の縦覧について

一、縦覧期間

昭和五十四年二月二十三日まで
(一五日間)

時間 午前八時三〇分～五時まで
二、場所

西原村選舉管理委員会

燃えるゴミと燃えないゴミは分別収集して下さい。

おめでとう成人式



社会人としてはばたく成人者の皆さん。258名が大人の仲間入り。社会人としての権利と責任を全うしてもらいたいものである。

選挙権

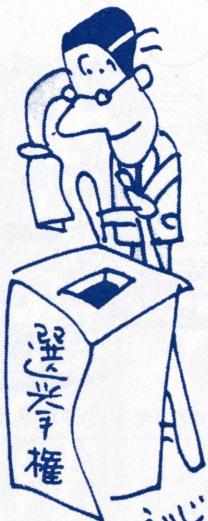
「一票の重み、を大切に

成人になつたことの象徴ともいえる権利の一つに、選挙権があります。

私たちには、選挙権行使するこによつて、国政をはじめ都道府県や市町村の地方政治に参加する機会を得ることができます。

選挙権は、日本国民で年齢が満二十歳以上など、諸要件を満たした人に与えられます。

選挙人名簿の登録は、毎年一回、九月に定期登録が行われますが、そのほか、選挙が行われるときには、そのつど登録であります。



際に選挙権行使するためには、市町村の選挙管理委員会が作成している選挙人名簿に登録されることができます。

登録は市町村選挙管理委員会が行いますが、選挙人名簿は一定期間、公開されます。万一、登録もれの場合は、補正登録を行います。

広報にしはらへの投稿依頼について

広報にしはらでは、村民の声を行政に反映させるため、村行政への意見、要望、その他西原雑感などを村民から応募しております。村広報係宛に投稿下さい。

テーマ 自由
原稿 四百字詰め原稿用紙二枚程度
宛先 西原村字嘉手丸一二
村企画課広報係
(電話) 五一四五三三三

二五八名がはばたく

一月十五日は成人の日、満二十才になつた人を祝う日です。

本村でも今年晴れて大人の仲間入りをした二五八名（男一四七名、女一一名）の若人を祝福する成人式が一月十四日午後二時から西原小学校体育館で村教育委員会主催で盛大に行なわれた。

前途有望で本村の担い手として各方面から期待が大きい村内の成人者を全村民で祝い、社会人としての自覚をうながすと共に社会人の権利と義務を全うしてもらいたいというのが皆んなの願いであります。

式典は約二百人の成人者と村長、議会議長、教育委員長、教育助役、収入役、村議會議員、各区事務担任者、村役場全課長は

代表して翁長出身の仲宗根武則さんが「……社会人としての義務責任を自己の個性を伸ばしながら果していくたいと思います。よき社会を築いていくために若者らしく

途洋々たるこの若人達が、地域社会発展の原動力となることを願ふべきものである。

尚、下記に今年成人式を迎えた方の声を紹介致します。

堂々と元気いっぱいしんじましたい。」と力強い謝辞。

この式典のあと休けいをはさんだ。成人者紹介のあと、仲宗根英輝教育長は「今日の成人の日を深くかんがみ、家庭にあつてはよい家庭人として、社会にあつてはより民主的な国民として地域社会の發展に寄与されるよう望みます。」

と式辞を述べられた。

次いで宮平村長、親泊村議會議長から祝辞が述べられ、小川教育長からは激励の辞を受けた。

仲宗根教育委員長より成人代表への記念品贈呈のあと、成人者を

代表して翁長出身の仲宗根武則さ

が「青年に望むもの」というテーマで講演が行なわれ、成人者の社

会人としての自覚が促された。

大平原を目ざして羽ばたく、前

は湧かないし、十代とちつとも変

つないというのが本音です。

よく「二十歳になつたらもう大

人だからちゃんと責任ある行動をも

うことです。私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

最後に、私の好きな言葉で「十九

歳になっての感想は」とよく聞かれても、まだ実感として

思ふが、まだ責任ある行動をして

いない人もいれば、十代の人でもち

ら、要するにそういう事は、本人

の自覚の問題ではないだろうかと

思うのです。

二十歳という年令を基点に一人

前の年間として社会が認めるとい

うことでの、私達の言動に対しても

社会的責任があり、今までの様に軽

いふうではありません。本当にそんな女

の姿がいい。」といふことに尽きるのであります。

